

平成28年度くらし安全・消費生活課 事業概要

くらし安全・消費生活課

平成28年度当初予算額 173,989 千円 (国庫支出金75,000 財産収入13 繰入金18,265 雑入1,965 一般財源78,746)

(平成27年度当初予算額 175,521 千円)

基本方針・施策		予算額 (千円)	分野
し あ わ せ 信 州 県 民 生 活 の 安 全 確 保	I 県民の安全・安心	0	消費生活の安定と向上
	1 商品・サービスの安全・安心		
	(1) 食品の安全・安心の確保		
	(2) 消費者事故情報等の収集及び提供		
	2 物価の安定と情報提供		
	3 持続可能な消費生活		
	II 商品・サービスの適切な選択機会の確保	5,425	
	1 適正な商取引の確保		
	(1) 悪質事業者に対する厳正な指導、処分		
	(2) 不適切な表示に対する立入検査、指導		
	(3) 割賦販売における事業者指導		
	2 多重債務者対策の強化		
	III 消費者教育の充実	28,350	
	1 消費生活情報の発信・啓発		
	2 消費者教育・学習		
(1) 消費者教育の推進方策の検討			
(2) 学校等における消費者教育の推進			
(3) 地域・職域等における消費者教育の推進			
(4) 消費者教育を担う人材の育成			
3 環境教育・食育等への取組			
IV 県民意見の反映	455		
1 透明性の確保			
(1) 消費生活審議会の運営			
(2) 消費者施策等の公表			
2 県民意見の施策への反映及び消費者団体との協働			
V 相談窓口の強化	118,246		
1 県消費生活センターの機能強化			
2 市町村相談体制の充実・強化			
小計(152,476)	
	I 交通安全運動の推進	3,950	交通安全対策
	1 交通安全運動推進本部・地方部の運営		
	2 交通安全功労者等の表彰		
	II 交通安全啓発活動	2,292	
	1 季別の交通安全運動等における広報啓発		
	2 地域別重点啓発事業		
3 交通安全関係団体の支援			
III 交通事故相談所の運営	14,368		
長野本所、松本支所、飯田支所、上田支所			
小計(20,610)	
	I 安全安心なまちづくりのための関係機関・団体との協働	0	防犯対策
	安全安心なまちづくりのための関係機関・団体との連絡、調整		
	II 防犯意識向上のための広報啓発	540	
	① 働き盛り世代による特殊詐欺撲滅プロジェクト		
III 自主防犯活動の活性化	363		
① 自主防犯ボランティア活動に関する情報発信			
② 自主防犯ボランティア活動支援			
IV 犯罪のおきにくい環境づくり	0		
公共空間における犯罪のおきにくい環境づくり			
小計(903)	

＜平成 28 年度消費者行政事業概要＞

H28 当初予算額 152,476 千円(うち一財 58,831 千円)
H27 当初予算額 156,713 千円(うち一財 58,403 千円)

I 県民の安全・安心のために

1 商品・サービスの安全・安心

(単位：千円)

施 策	事 業 内 容	H28	H27
(1) 食品の安全・安心の確保			
不適切な表示に対する事業者指導	国及び県表示担当課（食品表示法、景品表示法等）が情報の共有、連携を図りながら、関連する業界団体を含めた事業者指導を徹底する。	-	-
業界団体等と協働した事業者啓発広報（後掲）	適正な食品表示の徹底に向けて、関連する業界団体等と協働し、事業者に対する講習会の開催など、法令等の趣旨の徹底を図る。	-	273 (273)
食品表示法の運用	平成 27 年に食品表示法が施行され、包括的、一元的な表示制度となったことから、法律の適切な運用、執行体制の整備を行う。	-	-
(2) 消費者事故情報等の収集及び提供			
消費生活庁内連絡員の配置	消費生活に関連する業務を所管する部局に消費生活庁内連絡員を配置し、県民の生命・身体に危害が及ぶおそれのある製品事故等の情報を収集する。	-	-
リコール情報・重大事故情報等の収集・提供	P I O-N E T などからの情報を通じて、リコール情報、注意喚起情報及び重大事故情報等を広く収集し、各種媒体を通じて速やかな提供、周知を図る。	-	-
消費生活用品の立入検査・指導	消費生活用製品安全法に基づき、販売事業者への立入検査・指導を実施する。	-	-
製品テストの実施	県民の生命・身体に危害が及ぶ恐れのある製品事故は、消費者庁へ報告するとともに、国民生活センター等の専門機関を通じ必要に応じて製品テストを実施する。	-	-

2 物価の安定と情報提供

施 策	事 業 内 容	H28	H27
生活関連物資等の監視、調査及び公表	生活関連物資等の価格の動向と需給の状況等を監視し、必要に応じて消費生活条例に基づき価格、需給動向を調査し、結果を公表する。	-	-
石油製品価格動向調査の実施及び公表	県内の石油製品価格の動向を調査し、調査結果を公表する。	-	-
関係団体との情報交換と県民への情報提供	石油事業者団体との定期的な情報交換、情報収集を行い、県民に対し石油製品価格の動向等に関する情報を提供する。	-	-

II 商品・サービスの適切な選択機会の確保のために

【5,425千円（国庫支出金：2,646 雑入：237 一財：2,542）（H27：5,553千円）】

1 適正な商取引の確保

※下段の（ ）は国庫支出金及び基金繰入金額

施策	事業内容	H28	H27
(1) 悪質事業者に対する厳正な指導、処分			
徹底した事業者指導と行政処分	PIO-NETを活用し、被害状況の傾向・分析を行い、県内での悪質な事案は、国や他の自治体と情報共有、連携し、徹底した事業者指導・行政処分を行う。	211	211
注意喚起情報の発信及び警察との連携強化	消費生活センターへの苦情相談等から、詐欺的な勧誘の情報を直ちに県民に提供、注意喚起を行うとともに、被害防止に向けた対策を警察との連携を強化して取り組む。	—	—
事業者指導・処分のための専門職員の配置・育成	不当取引調査員及び事業者情報調査員を配置し、研修等による能力向上を図り、効果的な事業者指導・処分を行う。	4,998 (2,646)	4,853 (2,613)
(2) 不適切な表示に対する立入検査、指導			
不適切な表示に対する事業者指導（再掲）	国及び県表示担当課（食品表示法、景品表示法等）が情報の共有、連携を図りながら、関連する業界団体を含めた事業者指導を徹底する。	—	—
家電製品の販売に係る適正表示調査	家電販売団体等と協働し、家電販売の適正表示調査を行う。	—	—
家庭用品の立入検査・指導	家庭用品品質表示法に基づき、販売事業者への立入検査・指導を実施する。	—	—
業界団体等と協働した事業者啓発広報	適正な食品表示の徹底に向けて、関連する業界団体等と協働し、事業者に対する講習会の開催など、法令等の趣旨の徹底を図る。	—	273 (273)
(3) 割賦販売における事業者指導			
事業者からの報告徴収・立入検査の実施	友の会や冠婚葬祭互助会から財産状況や業務運営に関する事項等の報告を徴収し、定期的な立入検査を実施する。	—	—
	いわゆる個別クレジット販売において、県民に被害が発生した場合には、報告を求めるとともに、立入検査を実施する。	—	—

2 多重債務者対策の強化

施策	事業内容	H28	H27
多重債務相談の実施	県民からの多重債務相談に対して、多重債務問題改善プログラムに沿って、課題解決を図る。	—	—
多重債務者対策協議会の運営	関係団体・機関21団体と連携、協働し、多重債務者の生活再建や被害の未然防止策についての現状認識、今後の事業展開への情報交換及び協議を行う。	—	—
多重債務者無料相談会の開催	多重債務者の状況に応じた債務整理の方法を助言するため、弁護士会及び司法書士会と協働した無料相談会を開催する。	—	—
金融経済教育の強化	教育委員会及び金融広報委員会等と連携し、多重債務に関する知識の普及啓発及び金融金銭教育を積極的に推進する。	216	216
ヤミ金融業者対策の徹底	いわゆるヤミ金融業者に関する情報及び相談窓口を開設し、警察への通報及び監督上の処分を徹底する。	—	—

III 消費者教育の充実のために

【28,350千円（国庫支出金：23,457 雑入：1,284 一財：3,609）（H27：44,384千円）】

1 消費生活情報の発信・啓発

施策	事業内容	H28	H27
消費生活相談窓口の周知	県・市町村の相談窓口の役割の周知を行い、相談の掘り起こしを積極的に行う。	—	—
消費生活情報の発信・啓発	県ホームページ、メールマガジンにおける注意喚起情報や広報誌等を通じて、随時消費者被害の情報及び対策について発信する。 出前講座やワークショップを取り入れた啓発に取り組む。	2,315	2,306
高齢者に対する消費者被害情報の発信	関係する機関と連携して、高齢者を狙った悪質商法の消費者被害防止対策推進会議を開催し、啓発資料の配付や各種媒体を活用した情報発信を行う。	13,408 (13,050)	16,609 (16,279)
見守りネットワークを通じた啓発	地域の見守りネットワークを構築し、自治会、民生委員・児童委員、ボランティア団体及び市町村社会福祉協議会等との協働により高齢者の被害防止活動を支援する。	3,979 (3,979)	14,509 (14,509)
若者に対する消費者被害情報の発信	各種媒体を活用し、若者を狙った消費者被害の実態、防止策等を啓発、発信する。	4,900 (4,517)	5,330 (4,947)

2 消費者教育・学習

施策	事業内容	H28	H27
(1) 世代等を超えた消費者教育の推進方策の検討			
消費者教育推進地域協議会の開催	消費者教育を体系的、総合的かつ実践的に推進するため、消費者教育推進地域協議会を開催し、より効果的に推進するための方策を協議・検討する。	—	—
消費者団体等との協働	効果的な消費者教育の推進について、消費者団体等とも協働して、推進方策を検討する。	450	1,074 (624)
(2) 学校等における消費者教育の推進			
《小学校、中学校、高等学校、特別支援学校》			
学校における外部人材の活用	学校において、県の実施する出前講座や地域で活動する消費者団体等の人材を活用して、消費者教育を推進する。また、必要な専門講師を積極的に登用する。	411 (411)	956 (956)
高等学校における教材の作成・活用	高校生が高等学校における消費者教育のための教材作成を行うよう支援する。 作成された教材を活用した消費者教育に取り組む。	—	249 (249)
小中学校における啓発教材の配付	小中学校における啓発教材を作成し、配布する。	—	184 (184)
《大学、専修学校等》			
消費者教育推進の要請	大学の学生等を対象とした出前講座を実施する。 大学等の設置者に対し、消費者教育の実施及び消費者に配慮できる職業人としての教育の拡充を求める。	—	—

施 策	事 業 内 容	H28	H27
(3) 地域・職域等における消費者教育の推進			
消費者教育の拠点整備	消費生活センターを消費者教育の普及啓発及び人材育成等の拠点として強化する。 市町村と連携し、消費者教育を生涯学習の一環として推進するための場として、公民館を活用できるよう検討する。	—	—
消費生活講座等の開催	地域における消費者教育推進のため、くらしのセミナー及び出前講座を積極的に開催する。	611	611
地域における消費者教育の環境整備	地域における消費者教育の推進のため、担い手である人材の育成や市町村への取り組み強化の要請を行う。	—	—
学校、地域、消費者団体との協働した消費者教育の取組	児童・生徒や高齢者等がそれぞれ抱える消費者問題を共有化し地域力を向上するため、学校、地域、消費者団体が連携・協働した学習会などを検討する。	—	—
消費者団体等の活動支援	地域で活動する消費者団体や福祉団体等が開催する講習会及び啓発活動などに支援を行い、地域における消費者教育を推進する。	1,500 (1,500)	1,800 (1,800)
職域における消費者教育の推進	職域における消費者教育の推進のため、経済団体等への要請のほか、くらしのセミナー及び出前講座等の開催について広報するとともに、事業者、従事者の参加を促進する。	—	—
(4) 消費者教育を担う人材の育成			
消費者教育の拠点整備（再掲）	消費生活センターを消費者教育の普及啓発及び人材育成等の拠点として強化する。	—	—
学校における人材育成	学校における消費者教育の向上を図るため、文部科学省や国民生活センターの実施するセミナーや講座への参加など指導的な役割も持つ教職員のレベルアップを図るとともに、教職員を対象にした消費者教育研修会を開催する。	—	—
地域・職域における人材育成	地域、職域における人材の育成のため、消費者団体や福祉団体、事業者・事業者団体、大学等と協働して消費生活サポーターを養成し、研修会等を通じて地域力の向上に取り組む。	776	756

3 環境教育・食育等への取組

施 策	事 業 内 容	H28	H27
環境団体等と協働した取組	学校・地域における消費者教育及び環境学習の推進のため、環境団体やNPOとも協働して取り組む。	—	—

IV 県民意見の反映のために

【455千円（一財：455）（H27：248千円）】

1 透明性の確保

施 策	事 業 内 容	H28	H27
(1) 消費生活審議会の運営			
消費生活審議会の運営	県消費生活行政の重要事項の審議のため、消費生活審議会を設置・運営する。 施策全般の執行状況について、消費生活審議会に報告し評価を受けるとともに、審議過程の意見等について施策への反映を図る。	455	248
(2) 消費者施策等の公表			
施策等の公表	消費生活行政全般にわたる透明性を確保するため、施策や消費生活審議会における審議状況等をホームページ等で公表する。	—	—

2 県民意見の施策への反映及び消費者団体等との協働

施 策	事 業 内 容	H28	H27
県民意見の受付窓口	「県民ホットライン」や県消費生活情報のホームページに掲載されたメールアドレスに寄せられた意見等を参考に施策への反映を図る。	—	—
消費者団体等と協働した取組	消費者団体等との意見交換会を開催し、意見・要望の施策への反映を図るとともに、施策の推進にあたっては、セミナーや市町村との懇談会を共催する等、協働して取り組む。	—	—
消費者団体等の活動支援（再掲）	地域で活動する消費者団体や福祉団体等が開催する講習会及び啓発活動などに支援を行い、地域における消費者教育を推進する。	1,500 (1,500)	1,800 (1,800)

V 相談窓口の強化のために

【118,246千円（国庫支出金：48,357 基金繰入金：17,265 雑入：399 一財：52,225）
（H27：106,528千円）】

1 県消費生活センターの機能強化

施策	事業内容	H28	H27
消費生活相談員による相談・あっせんの実施	県の消費生活センターに消費生活相談員を配置し、県民からの相談・苦情の受け付けやあっせんを実施するとともに、市町村消費生活相談窓口の支援を行う。	51,087	50,848
相談員の相談技術の向上	相談技術の向上及び専門性の確保を図るため、国や国民生活センター等の研修に参加する。	1,516 (1,335)	1,516 (1,335)
苦情処理専門員の配置	専門的な法律知識を必要とする相談・あっせんに対応するため、弁護士等の苦情処理専門員を配置する。	960	960
消費者被害救済委員会の設置・運営	被害の多発、消費者利益が著しく侵害される紛争について、知事の付託に応じて、あっせん・調停を行うため、消費者被害救済委員会を設置・運営する。	78	78
弁護士会との協働	弁護士会と協働による懇談会を開催し、直近の相談動向や対処方法等について、課題の共有を図る。	—	—
消費生活相談窓口の周知（再掲）	県・市町村の相談窓口の役割の周知を行い、相談の掘り起こしを積極的に行う。	—	—

2 市町村相談体制の充実・強化

施策	事業内容	H28	H27
《市町村相談体制の整備》			
市町村消費生活センター設置促進	市町村における消費生活センター設置促進と広域連携による消費生活センター設置促進を支援する。	53,278	41,740
市町村相談窓口機能強化への支援	市町村相談窓口への啓発資料の提供のほか、消費生活相談員の配置や啓発事業などに支援する。	(53,278)	(41,740)
《市町村相談窓口への技術的支援》			
相談員等の技術的支援	相談員等の相談技術向上のための研修会を開催する。県消費生活センターに市町村消費生活相談支援員を配置し、相談業務に対する助言を行う。	8,421 (8,103)	8,430 (8,125)
相談員の確保対策	相談員を確保するため、養成研修の実施や人材バンクを充実する。	2,906 (2,906)	2,956 (2,956)

消費者被害防止対策推進事業

くらし安全・消費生活課

1 背景・目的

詐欺まがいの投資勧誘、アダルトサイト等の架空請求、高齢者をターゲットにした強引な電話勧誘、訪問販売等、消費者被害が後をたたない現状がある。

また、平成26年6月に策定した「長野県消費生活基本計画」は、消費者教育の推進に関する法律に基づく消費者教育推進計画としての位置づけもあり、消費者の自立を支援するための施策や目標が盛り込まれたところである。

そこで、消費者のステージ別に消費者教育の推進を図るとともに、消費者被害に遭わない遭わせない（見守り）といった県民意識を高め、被害の未然防止を図るため、「消費者被害防止対策推進事業」を実施する。

2 事業の概要

- (1) 消費者被害防止啓発イメージキャラクターを活用した統一感のある啓発を実施する。
また、消費者の自立支援並びに市町村消費者行政担当者の被害防止に対する取組強化に資するための講演会の開催、地域での高齢者への声掛けなどを合わせて一体的に取り組む。
- (2) ライフステージ別の消費者教育の推進を図り、被害に遭わない「かしこい消費者」の養成に努める。
- (3) 長野県消費者被害防止対策推進会議を開催し、事業者、消費者団体、関係団体、行政機関が連携を強化して効果的な事業実施を図る。

3 予算額 22,287千円（一財）

消費生活サポーター設置事業

くらし安全・消費生活課

1 目的

刻々と変化する悪質商法に対処し、消費者被害を防止するため、身近な生活圏レベルでのきめ細やかな消費者教育が必要とされていることから、各地域・職域ごとに消費生活に関するリーダーとして啓発や消費者教育などを担う消費生活サポーター（以下「サポーター」という。）を募集し、養成する。

なお、平成 26 年度に策定した「長野県消費生活基本計画・消費者教育推進計画」の中で、地域・職域における消費者教育の核となるサポーターの創設が盛り込まれ、平成 29 年度までに、登録者数 300 人を重点目標として掲げている。

2 事業の概要

(1) サポーターの募集及び登録

- サポーターの募集にあたっては、市町村、福祉団体、消費者団体、企業及び大学等に、広く周知する。
- サポーターを希望する者は、くらし安全・消費生活課が開催する「サポーター養成講座」及びそれと同等と認められた県主催の研修を受講する。
- 上記研修受講者をサポーターとして認定し、認定証を交付する。
- 消費生活センター、市町村及び関係機関等へ認定者の情報を提供し、効率的な活用を促す。

(2) サポーターの役割

- 各地域・職域における消費者への啓発、消費者教育の実施
- 消費者トラブルの相談窓口への誘導
- 地域における消費者被害防止のための見守り活動への参加、協力
- 消費生活に関する講座・セミナー等への参加
- 公民館活動等、地域の集会及び職域等における消費生活講座等の講師

(3) サポーターの任期

- 任期は登録した年度の 3 月末日までとし、辞退届の提出がない限り、翌年度も更新する。

(4) 平成 28 年度の実施計画

- 年度当初、新たにサポーター 80 人を目標に募集し、応募者を対象に、サポーター養成講座を 4 会場で開催し、サポーターとして認定する。
- 平成 27 年度までに既に消費生活サポーターとして認定されている者を対象に、地域・職域における消費生活に関するリーダーとしての知識や実践的能力を高めるとともにサポーター同士の交流を図るため、サポーター養成講座を 4 会場で開催する。

3 予算額 776 千円（一財）

消費生活審議会等の運営

くらし安全・消費生活課

1 趣 旨

消費生活条例第38条の規定により、消費者施策に関する重要事項について調査審議するとともに、県民の消費生活の安定・向上に関する重要事項について意見を述べるため、消費生活審議会を設置・運営する。

2 概 要

(1) 委 員

- ・ 定 数 15 人
- ・ 属 性 消費生活に関し識見を有する者、消費者、事業者
- ・ 任 期 2 年 (H27. 8. 7～H29. 8. 6)
- ・ 回 数 2 回 (27 年度 第 1 回 : H27. 5. 20、第 2 回 : H27. 11. 17 開催)
※委員からの要望により、委員の意見の聴取の機会を増やすため、27 年度から年 2 回の開催とした。

(2) 審議内容

消費者施策に関する重要事項についての知事からの諮問に応じた調査審議並びに県民の消費生活の安定及び向上に関する重要事項についての意見申述

- ・ 消費者施策の実施状況
- ・ 学校における消費者教育の推進状況 など

3 事業の効果

県が推進する施策の実施状況等の公表や県民各層からの専門的な知見等に基づく多様な意見の聴取により、行政運営の透明性の確保と県民意見の施策への反映が図られる。

4 予算額 4 5 5 千円 (一財)

新 防犯意識向上事業

くらし安全・消費生活課

1 趣 旨

刑法犯認知件数は、平成 13 年に戦後最悪を記録して以降、減少傾向にあるが、特殊詐欺や、子どもや女性が被害に遭う犯罪は後を絶たず、体感治安は改善していない。県民の防犯意識を向上させ、県民が犯罪の被害に遭うことなく、また犯罪の被害に遭う不安を抱くことのない安全で安心な社会の実現を目指す。

2 事業概要

項 目	事 業 内 容
防犯意識向上のための 広報啓発	<p>多発する特殊詐欺被害を撲滅するため、働き盛り世代を対象とした広報啓発と被害防止活動の活性化を図る。</p> <p>○特殊詐欺撲滅プロジェクトの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き盛り世代対象訓練型特殊詐欺対応講座の開催 ・特殊詐欺被害防止協力企業・団体認証制度の創設
自主防犯活動活性化	<p>自主防犯活動を活性化し、県民の防犯意識の向上を図る。</p> <p>○自主防犯活動に関する情報誌の発行</p> <p>○自主防犯活動に資する研修会の開催</p> <p>○子どもの防犯意識向上のための取組</p>

3 達成目標

特殊詐欺被害認知件数

H25 実績	H26 実績	H27 実績	H28	H29
195 件	190 件	297 件	120 件	90 件

4 予算額 903 千円 (国交付金 (10/10) 540 千円、一財 363 千円)